**【子どもの貧困率 ／ 貧困率の国際比較（2013年）】（日本）**

(%)



（年）

※1:2014年　※2:2012年

（資料）厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」

OECD（2016）Family database ”Child income poverty rates,2013 or nearest available year ”

**【大阪市の困窮度】**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 基準 | 小５・中２保護者 | | ５歳児保護者 | |
| 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 中央値以上 | 等価可処分所得中央値  （238万円）以上 | 11,456 | 50.0％ | 6,657 | 52.5％ |
| 困窮度Ⅲ | 等価可処分所得中央値未満で、中央値の60％以上 | 6,430 | 28.1％ | 3,749 | 29.6％ |
| 困窮度Ⅱ | 等価可処分所得中央値の  50％以上60％未満 | 1,515 | 6.6％ | 774 | 6.1％ |
| 困窮度Ⅰ | 等価可処分所得中央値の  50％未満 | 3,490 | 15.2％ | 1,500 | 11.8％ |

（資料）大阪府立大学「大阪市の子どもの生活に関する実態調査報告書」（平成29年3月）

　　　 「等価可処分所得」：世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の 平方根で割って調整した所得

　　 「相対的貧困率」 ：相対的貧困率は、一定基準を下回る（困窮度Ⅰに該当）等価可処分所得しか得ていない者の割合